

釧路湿原川レンジャー News

2024 Vol.4

第3回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました！

「第3回釧路湿原川レンジャー学習会」を令和6年10月5日(土)に、浜中町の「霧多布湿原センター」にて開催し、21名の川レンジャーが参加しました。

午前中はセンターを管理するNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの島崎係長から、霧多布湿原についてご説明いただいた後、「やちぼうず木道」を散策しながら湿原の自然について解説していただきました。午後からは、酪農学園大学の立木准教授から、霧多布湿原周辺のエゾシカについてご講演いただきました。また、現地見学として奥琵琶瀬野鳥公園周辺と琵琶瀬展望台でもエゾシカの調査や設備管理などについて解説していただきました。



琵琶瀬展望台から湿原をバックに記念撮影



■ 霧多布湿原について

霧多布湿原は浜中町にある、面積3,168haの湿原です。別名「花の湿原」とも言われ、844種の植物が確認されています。また、多様な湿原環境があることも特徴です。湿原は低層・中間・高層および塩湿地の4つのタイプに分けられます

が、4タイプすべてが見られるのは、根釧地域周辺では霧多布湿原のみとなります。

この他、霧多布湿原に生息する生き物や、NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストが湿原の保全に関わる活動として行っている、ナショナルトラスト活動(地域住民による自然環境保護を目的とした土地等の寄付・買取り及びその管理)、教育・普及啓発活動、調査・研究活動についてもご説明いただきました。学習会に参加した川レンジャーからは、「タンチョウはどのくらいいるのですか?」「どのような場所の土地を買取っているのですか?」「太陽光パネルの設置状況はどうなっていますか?」など、釧路湿原の自然環境にも深く関わる質問が寄せられていました。



今回解説をいただいたNPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの島崎係長(左)と霧多布湿原の説明に聞き入る川レンジャーの皆さん

■ 霧多布湿原について つづき

現地見学では、センタースタッフの解説付きで、霧多布湿原にかかる「やちぼうず木道」を散策し、ヤチボウズや湿原内を流れる小川などを観察しました。また、トドマツ林内にはエゾモモンガの巣箱が設置されていました。



ヤチボウズと木道



落ちてしまったエゾモモンガの巣箱。エゾモモンガが巣箱を木の枝に括り付ける麻紐をかじってしまうのだそうです。

■ 霧多布湿原周辺のエゾシカについて



酪農学園大学 立木准教授

午後からは、酪農学園大学 立木靖之准教授より、霧多布湿原周辺におけるエゾシカの調査やその結果などについてご説明いただきました。エゾシカの数はやや多いものの、ここ数年大きく増えてはいないそうです。また、エゾシカの季節的な移動についてや、湿原の自然を守るための電気柵の設置、アーバンディア(市街地に出没するエゾシカ)などについてもご講演いただきました。川レンジャーからは、「釧路湿原にはどのくらいの数のエゾシカがいるのですか?」「ハンターの数の減少にはどう対応したらよいのでしょうか。」といった質問が寄せられました。

現地見学として、講演の中にもあった琵琶瀬川沿いにかかる電気柵を見学しました(奥琵琶瀬野鳥観察公園入口)。電気柵は川沿いに1 kmほど設置されています。効果的な対策のためには工夫が必要で、ここではその試験の意味合いもあるそうです。また、効果を維持するためには管理作業が必須ですが課題も多く、現在、周辺住民の方と協力して管理を行い、今後の管理方法についても検討しているとのことでした。



教授の解説に耳を傾ける川レンジャー

■ 観察活動の報告

川レンジャーより観察活動の報告がありましたので、ご紹介します。観察活動は川レンジャー活動の柱であり、釧路湿原の河川環境維持に大変役立っています。今後も釧路湿原川レンジャーNewsで紹介していきますので、皆様からの報告をお待ちしております。

報告日	報告内容
2024年8月25日	大規模運動公園から見える旧雪裡川で、コガモを確認しました。今季初確認です。
2024年8月29日	釧路湿原で太陽光パネルがだんだんと増えているのが気になります。
2024年8月30日	オオアワダチソウの群生化が気になります。武佐の森大橋からも群生が目立ち、そのうち、湿原を覆ってしまわないか心配です。手を打たないと、このまま増え続けていくのではないのでしょうか。
2024年9月11日	大規模運動公園にある木道先端テラスのフェンスが、また破損していました。釧路市都市整備部公園緑地課にも報告しました。

